

戦略的創造研究推進事業
(社会技術研究開発)
令和2(2020)年度研究開発実施報告書

「安全な暮らしをつくる新しい公／私空間の構築」

研究開発領域

「多様化する嗜癖・嗜虐行動からの回復を支援する

ネットワークの構築

Implementation of Recovery Circle in Japanese Society
for a Variety of Addiction Behaviors」

石塚 伸一
(龍谷大学 教授)

本研究開発プロジェクトは、当初の研究開発期間後の令和元年12月より「研究開発成果の定着に向けた支援制度」の適用となったため、本報告書は同制度適用期間中（令和元年12月～令和2年3月）の実施内容を報告するものである。

目次

1. 研究開発プロジェクト名	2
2. 研究開発実施の具体的内容	2
2-1. 研究開発目標	2
2-2. 実施内容・結果	3
2-3. 会議等の活動	13
3. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況	16
4. 研究開発実施体制	17
5. 研究開発実施者	18
6. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など	18
6-1. シンポジウム等	18
6-2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など	19
6-3. 論文発表	19
6-4. 口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表）	19
6-5. 新聞／TV報道・投稿、受賞等	20
6-6. 知財出願	20

1. 研究開発プロジェクト名

多様化する嗜癖・嗜虐行動からの回復を支援するネットワークの構築

Implementation of Recovery Circle in Japanese Society for a Variety of Addiction Behaviors

2. 研究開発実施の具体的内容

2-1. 研究開発目標

1. 「研究開発成果の定着（最終目標）の姿」は以下の通りである。

本事業の最終目標は、多様なアディクション（嗜癖・嗜虐行動）からの回復を支援する個人やグループの緩やかなネットワークを構築し、専門家や地域社会が“理性ある隣人（reasonable neighbor）”として支援することによって、最終受益者である当事者やその家族等がアディクションから“立ち直り”、「その人らしい生き方」を回復することができるという展望を社会に示すことである。

本事業が成功すれば、アディクションという問題を抱える当事者または家族等は、ATA-netのワンストップ相談に連絡し、トレーニングを受けたコーディネーターに相談をする。コーディネーターは、当事者、家族、隣人、雇用主（教師）、福祉職員、ソーシャルワーカー、学識経験者などの支援者に声をかけ、サークル型“えんたく”を開催して、当事者の課題を共有する。支援者たちは、他の支援者と連携を取りつつ、当事者の“孤立”を解消する方向性を見つけ出し、穏やかに回復を支援する。

また、地域社会で依存問題が流行しているような場合には、家族や隣人、支援者や専門家などに声をかけ、可能であれば当事者を交えて、コミュニティー型“えんたく”を開催し、課題を共有し、継続的な話し合いの道を模索する。参加者たちは、問題状況への理解を深めながら、地域社会としてできることを共に考えていく。その際、必要があれば、行政や議会に働きかけて、事態改善のため、法令等の改正や施策の改善を求める。

本事業の目標は、上記のような“えんたく”を全国に広げていくことである。

また、全国展開をするにあたり、多くの“えんたく”を実施する必要があるが、昨今の新型コロナウイルス感染拡大に伴い、対面での“えんたく”（従来型の“えんたく”）の実施が困難になったことにかんがみ、オンラインでの“えんたく”の実施を強化する（ICT化）。

※新型コロナウイルス感染拡大に伴い、領域から承認を受け、当初予定にはなかった“えんたく”および研修のICT化を実施項目に加えた。

2. 「研究開発プロジェクトにおける目標」は以下の通りである。

A. 事業計画の策定

ATA研究センター（センター長・石塚伸一）がATA-net（代表・石塚伸一）らと協力して、依存の当事者やその家族ら受益者を対象とする問題解決のための“えんたく”やイベントを実行する“えんたく”事業計画が策定されていることを目標とする。具体的には、以下が目標となる。

実施項目① ATA-netとATA研究センターとの連携体制が構築されている

実施項目② “えんたく”のスキームが確立し、それが定着している

実施項目④ 研修が体系化され、継続的に行われている

- 実施項目⑤ アディクション回復支援が理論化され、内外に発信されている
- 実施項目⑥ 理論化された「ケース・セオリー」を用いた研究会が開催されている
- 実施項目⑦ 実装戦略の立案、組織の構造化ができています
- 実施項目⑨ ホームページ改訂とアクセス数のデータ蓄積がなされている
- 実施項目⑫ 評価指標を立て、それに基づいた評価が年度ごとに実施されている
- 実施項目⑬ “えんたく”に対する評価データが集積され、“えんたく”のエビデンスが示されている

B. 事業計画の実行のための準備

上記のように策定された“えんたく”事業計画を実行するための準備として、以下が達成されていることを目標とする。

- 実施項目③ 研修等で用いる教材が完成している
- 実施項目⑧ 活動資金の獲得・資金繰り計画が確定している
- 実施項目⑩ 「全国ATA協会（仮称）」が2023年中に設立される準備が整っている
- 実施項目⑪ 「アディクション差別解消推進法（仮称）（案）」を策定する準備を行う

2-2. 実施内容・結果

(1) 各実施内容

1. 理念と構想

実施項目①：体制準備

ATA-netとATA研究センターとの連携体制を構築する。

実施時期 2020年1月25日

マイルストーン：2020年1月25日に、薬物政策の世界的牽引者であるE・ネーデルマンを招聘し、龍谷大学ATA研究センターキック・オフ・シンポジウム（「動き始めた世界の薬物政策」）を開催していることがマイルストーンとなる。

担当者：石塚伸一（龍谷大学）

実施項目②：事業構想の確立

“えんたく”スキームを確立する。

実施時期 2019年12月～2021年3月

“えんたく”ワーキングチーム（EWT）が主体となり、“えんたく”開発班とATA研究センター教育事業部が協力して、多様な問題に関する“えんたく”を開催し、経験を共有化するための研究会を開催する。そして、研究会において共有された経験や知識を用い、国際学会において“えんたく”を実施する。

また、“えんたく”スキームを精錬させるとともに、分かりやすい教材の作成と研修会等を通じて、司会やファシリタを養成し、“えんたく”の普及・定着に努める。

さらに、新型コロナウイルス感染拡大にかんがみ、研修のICT化に努める。

マイルストーン：2020年4月に“えんたく”マニュアル案が作成されていること、2020年5月に当該マニュアルを用いた“えんたく”が行われていること、2021年5月にオンライン“えんたく”のスキーム構築に向けたICT化に取り掛かっていること、2021年6月に“えんたく”マニュアルが完成し、マニュアルに基づいた“えんたく”が実践されていることがマイルストーンとなる。

担当者：EWT

実施項目③：教材の作成

“えんたく” 担い手養成のための教材を作成する。

実施期間 2020年1月～2021年3月

EWTが中心となって“えんたく” 研究会を開催し、教材化に向けたノウハウの集積を行い、それに基づいた“えんたく” の研修用教材を作成する。

“えんたく” の実践を重ねてスキル・アップするほか、「“えんたく” のための“えんたく”」を実施し、ノウハウを模索する。

マイルストーン：年間で10回以上の“えんたく” の実施と2021年度における「“えんたく” のための“えんたく”」の開催がマイルストーンとなる。

担当者：土山希美枝（龍谷大学）、石塚伸一（龍谷大学）

2. 人的資源

実施項目④：研修（初級・中級・上級）

④-1：担い手の育成のための研修等を確立する。（研修概要等の確立）

実施時期 2019年12月～2021年3月

各ユニットとATA研究センター教育事業部が協力して、地域社会における回復支援の担い手を育成するため、到達度（初級・中級・上級）に応じた書籍や教材を作成し、講演会、シンポジウム、初級者・中級者研修、再教育などを開催する。

研修教材を用いた研修会・講習会・シンポジウムなどを開催する。研修会等の開催にあたっては、昨今の新型コロナウイルス感染拡大にかんがみ、オンラインでの開催を強化する（ICT化）。

マイルストーン：2020年6月に初級の教材案を作成し、同年7月・8月に教材案を用いたトライアルが実施されていること、2021年5月にICT化に取り掛かり、同年6月に初級の教材が完成し、同年9月以降に当該教材を用いた研修会・講習会・シンポジウム等を開催することがマイルストーンとなる。

担当者：石塚伸一（龍谷大学）、EWT

④-2：人材育成のための“えんたく” の実践と担い手の持続的育成（人材育成のための“えんたく” 開催）

実施時期 2020年1月～2021年3月

人材育成のために“えんたく” を開催し、“えんたく” の実行を通じ人材育成に努める。

“えんたく” の実践を重ねて、スキル・アップするほか、「“えんたく” のための“えんたく”」を実施し人材育成のノウハウを集積する。

マイルストーン：年間で10回以上の“えんたく” の実施と2021年度における「“えんたく” のための“えんたく”」の開催がマイルストーンとなる。

担当者：土山希美枝（龍谷大学）、石塚伸一（龍谷大学）

実施項目⑤：理論化

アディクション一般理論の発信

実施時期：2020年4月～2021年3月

理論構築サークルが中心となって、アディクション回復支援を理論化し、日本における嗜癖・嗜虐への取り組みを内外に発信する。

年2回を目処に、定例のTJ研究会を開催する。また、7月に開催予定の「法と精神医療に関する学術会議」（フランス・リヨン）において、理論化されたアディクション回復支援について発信する。

マイルストーン：定例のTJ研究会の開催および「法と精神医療に関する学術会議」での発表がマイルストーンとなる。

担当者：指宿信（成城大学）ほか

実施項目⑥：汎用化

アディクション対策スキームの汎用化・多様化による定着

実施時期 2020年4月～2021年3月

調査研究セクターの実践研究から得られた事例研究の成果を「ケース・セオリー」として理論化し、多様な嗜癖・嗜虐事案について汎用性のある理論を構築し、「治療的司法」のアプローチとメソッドを支援の現場に普及定着させる。その際、ATA-netの理論構築サークルの治療的司法研究会（指宿信）とデジスタンス研究会（中村正）と連携・協力して、汎用化を進める。研究会等の開催にあたっては、ICT化を強化する。

マイルストーン（1）：治療的司法研究会（TJ研究会）における指宿信〔監修〕治療的司法研究会〔編著〕『治療的司法の実践』（第一法規・2018年）の刑事弁護事例研究の発展と応用がマイルストーンとなる。

担当者：指宿信（成城大学）ほか

マイルストーン（2）：定例的に、理論化された「ケース・セオリー」を用いた研究会の開催がマイルストーンとなる。

担当者：中村正（立命館大学）ほか

3. 持続的展開

実施項目⑦：構造化

①実装戦略の立案、②“えんたく”ワーキング・チームの構成等を行い、組織の構造化を図る。

2020年4月までに“えんたく”ワーキング・チーム（EWT）を立ち上げる。EWTは①“えんたく”の理念（philosophy）、内容（contents）、種類（category）、研修（training）、教材（books）、ミニマム・スタンダード（minimum standard）の「概念」を確定し、②実践と実験を重ねながら「概要」を改善する。また、③体験者にはアンケートを実施し、将来の効果測定と改善方策のエビデンスを収集する。また、出版事業の確立を行う。

実施時期 2020年4月～2022年3月（予定）

マイルストーン：2020年4月にEWTが構成されており、2020年6月に実装戦略の立案が完成していること。2022年3月まで継続して、決定した戦略に基づき“えんたく”（基本パターン）を行い、さらにはコロナ禍に対応した基本パターンの修正を行い“えんたく”を開催していることがマイルストーンとなる。

担当者：西村直之、EWTほか

実施項目⑧：財政運営

会員向け教本の作成と活動資金の獲得と財政基盤の確保

実施時期 2020年4月～2022年3月（予定）

“えんたく” および模擬裁判のパッケージ価格を確定する。自治体・企業・教育機関等に向けた“えんたく”派遣の営業活動を開始する。

マイルストーン：2023年中に「全国ATA協会（仮称）」を設立することがマイルストーンとなる。

担当者：石塚伸一（龍谷大学）

4. 戦略と戦術

実施項目⑨：ATA-netのブランド化

実施時期 2019年12月～2021年3月

情報広報センターで事業評価資料として収集した関係者のマス・メディア等への露出度を分析・検討し、アディクションに関する一般市民の意識やATA-netの知名度を向上させるための戦略活動を推進する。

マイルストーン：2020年6月にホームページの改訂を行い、その後、毎月のアクセス数の確認を行いデータ化することがマイルストーンとなる。

担当者：石塚伸一（龍谷大学）

実施項目⑩：組織化

回復支援者の増加と組織化

実施時期 2020年1月～2022年3月（予定）

当事者個人または団体との連携、一般市民への啓蒙、回復支援者のネットワークの構築、大学等での教養教育、高度専門職人・研究者の養成、関係機関および団体との連携・協力などを通じて回復支援者をより一層増やすための活動を推進するとともに、“つながった”回復支援者を組織化するための戦略を構築する。「全国ATA協会（仮称）」の2023年中開設を目指して設立準備委員会を立ち上げる準備に着手する。

マイルストーン：2020年1月に龍谷大学ATA研究センター キック・オフ・シンポジウムが開催されていること、2021年12月に協会の設立準備委員会が立ち上げられ、2022年中に設立準備が完了していること、および2023年中に「全国ATA協会（仮称）」が設立されていることがマイルストーンとなる。

担当者：石塚伸一（龍谷大学）

実施項目：⑪：将来展望

アディクションに対する差別や偏見の解消

実施時期 2021年10月～2022年12月（予定）

「ダメ。ゼッタイ。」キャンペーンやマス・メディアの報道、回復施設の建設反対運動などに見られるように、いまだにアディクションに対して根強い差別や偏見がある。多様化する依存者を“孤立の病”に罹患した者として治療するとともに、その社会復帰や真の回復のためには、差別や偏見の解消を推進する必要がある。

12月に「全国ATA協会（仮称）」の設立準備委員会を立ち上げる。

マイルストーン：2023年中に「全国ATA協会（仮称）」が開設されていることがマイルストーンとなる。

担当者：石塚伸一（龍谷大学）

5. エビデンスと評価

実施項目⑫：構想確認

“えんたく”構想のチェック

実施時期 2020年4月～2022年3月（予定）

年次報告書には、当該年度の①セミナーや研修の回数・受講者の人数・満足度など、②修了者および認定指導者の数、③「全国ATA協会（仮称）」会員候補、④“えんたく”の開催回数および参加者数、⑤イベントの開催状況と社会的知名度の向上（一般市民、専門職等）、⑥他機関との連携状況、⑦財政的自立の状況などを報告し、龍谷大学の設置する第三者委員会が、これらの指標を総合的に評価する。評価の結果は、ATA-netを通じてJST/RISTEXに報告する。

なお、評価手続については、『龍谷大学ATA-net研究センター設置規程』に定められている。

マイルストーン：年次報告書の作成がマイルストーンとなる。

担当者：EWTほか

実施項目⑬：実数確認

“えんたく”実施状況のチェック

実施時期 2020年4月～2022年3月（予定）

“えんたく”参加者に向けたアンケートを実施し、“えんたく”に対する評価のデータを集積し、エビデンスデータとする。

マイルストーン：“えんたく”開催後2週間以内にエビデンスデータが集計されていることがマイルストーンとなる。

担当者：EWTほか

（2）成果

1. 理念と構想

実施項目①：体制準備

ATA-netとATA研究センターとの連携体制を構築する。

成果：2020年1月25日に、薬物政策の世界的牽引者であるE・ネーデルマン氏、ジョー横溝氏を招聘し、龍谷大学ATA研究センターキック・オフ・シンポジウム（「動き始めた世界の薬物政策」）を開催し、ニコニコ動画に委託して、全国に向けて生配信した。ライブの参加者は、研究者・実務家・支援者等この問題に関心を持つ人たちであった（約230名）。配信動画の視聴者（約1万人）の属性は多岐にわたり、日本の薬物政策転換のきっかけとなる機会となったと思われる。



実施項目②：事業構想の確立

“えんたく”スキームを確立する。

成果：2020年4月に“えんたく”ワーキングチーム（EWT）を立ち上げ、計10回の定例会議を開催した。定例会議では、“えんたく”スキームについて議論を行い、研修会におけるシラバス等を確定した。さらに、EWTが主体となり、多様な問題に関する“えんたく”を開催した。経験を共有化するための研究会を開催し、研究会において共有された経験や知識を用い、2021年6月に開催予定の第12回アジア犯罪学会年次大会サイドイベントにおいて“えんたく”を実施する予定である。

また、“えんたく”リーダーを養成するための教材を作成し、2020年11月・12月、“えんたく”リーダー養成講座を開講し、“えんたく”の普及・定着に努めた。講座には13名の参加があり、13名全員が第1期生として修了した。受講者らから「“えんたく”を活用したい。」「上級コースの受講もしたい。」などの感想があり、“えんたく”の普及・定着に手応えのある研修となった。

実施項目③：教材の作成

“えんたく”担い手養成のための教材を作成する。

成果：第1回EWT定例会議において教材の枠組みの策定を行い、10月にテキスト原稿が完成した。“えんたく”リーダー養成講座において当該教材を活用した。受講生にアンケートをとり、教材の改善作業を進めている。

2. 人的資源

実施項目④：研修（初級・中級・上級）

④-1：担い手の育成のための研修等を確立する。（研修概要等の確立）

成果：これまでに、DARS研修や講演会などで実施した初級研修を発展させ、前記②の“えんたく”リーダー養成講座を企画し、中級研修を実施した。次年度はさらなる展開である上級研修を実施する予定である。また、京都府薬務課と協力し、模擬裁判形式の「薬物乱用防止教室」を開催して、高校生を対象とする研修を実施した。

④-2：人材育成のための“えんたく”の実践と担い手の持続的育成（人材育成のための“えんたく”開催）

成果：前記④-1の中級研修には、現在支援活動を行っている受講者もおり、担い手の持続的育成の機能も果たしている。

実施項目⑤：理論化

アディクション一般理論の発信

成果：理論構築サークルは、成城大学治療的司法研究センター（指宿信）と協力し、計10回のTJ研究会の開催により、アディクションの一般理論の発信に努めた。研究会の成果は、『治療的司法ジャーナル』第4号により、オンラインで発信されている。

<https://www.seijo.ac.jp/research/rctj/publications/journal/index.html>

ジャーナル発行や学会報告等により、日本における嗜癖・嗜虐への取り組みを内外に発信した。なお、2021年に開催予定であった「法と精神医療に関する学術会議」（フランス・リヨン）は、2022年7月に延期されたが、理論化されたアディクション回復支援に

ついてセッションを企画している。第12回アジア犯罪学会において、日本-タイ二国間学術交流の成果の一部を発表する予定である。

実施項目⑥：汎用化

アディクション対策スキームの汎用化・多様化による定着

成果：APS (After Prison Supports) 研究会をオンラインで毎月1回、計16回開催した。アディクション理論を出所後の長期受刑者の社会復帰に応用し、孤立についての「ケース・セオリー」の汎用化を試みている。当事者を中心に据えるミーティング等を実施し、孤立からの回復を模索している。上記のTJ研究会等をオンライン形式で実施し、多様な嗜癖・嗜虐事案についてのケースを集積している。「治療的司法」のアプローチとメソッドを支援の現場に普及定着させいくことが次の課題である。

3. 持続的展開

実施項目⑦：構造化

①実装戦略の立案、②“えんたく”ワーキング・チームの構成等を行い、組織の構造化を図る。

成果：2020年4月に“えんたく”ワーキング・チーム (EWT) を立ち上げ、同年6月に実装戦略 (初案) を策定した。同戦略のより一層の構造化に向けての改訂が課題となる。

実施項目⑧：財政運営

会員向け教本の作成と活動資金の獲得と財政基盤の確保

成果：“えんたく”リーダー養成講座において受講料 (33,000円税込) を徴収し、活動資金の獲得に向けた活動を開始した。

4. 戦略と戦術

実施項目⑨：ATA-netのブランド化

成果：定例会議において、ホームページの見直しを行い、ホームページの逐次改訂を進めている (<https://ata-net.jp>)。

また、情報広報センターで事業評価資料として収集した関係者のマス・メディア等への露出度を分析・検討し、アディクションに関する一般市民の意識やATA-netの知名度を向上させるための戦略活動を展開している。

実施項目⑩：組織化

回復支援者の増加と組織化

成果：当初計画にもあった、ATA-netの自立運営のため、2021年1月、「一般社団法人刑事司法未来」(代表理事 石塚伸一) を設立した。同法人は、現在の日本において、一般市民に「十分なリーガル・リテラシー」を学ぶ機会が提供されていない現状を打開するため、刑事司法とそれを取り巻く社会に、科学的、人道的、国際的なスピリットとコミュニケーション・ツールを持った次世代の刑事司法の担い手を育成するシステムを構築し、広く普及させることを目的とし、大学初の社会科学ベンチャーとしての自走をめざしている。同法人は、上記の目的を達成するため、次の事業を行うとし、項目を掲げている。

- (1) 犯罪学・刑事政策学の振興を目的とする事業
- (2) “つまずき”からの回復支援を目的とする事業
- (3) 法情報・法教育の振興を目的とする事業
- (4) その他、刑事司法の未来を支える市民の育成に関連する事業

とりわけ、(2)および(3)の事業が当研究開発プロジェクトおよび“えんたく”の定着に関連している。

上記法人は、定着支援終了後に協働実施者である龍谷大学ATA-net研究センター（センター長石塚伸一）に代わり、上記の事業の運営母体となることを予定している。

実施項目⑪：将来展望

アディクションに対する差別や偏見の解消

成果：龍谷大学深草キャンパスの近隣地域（西浦町）における回復施設建設反対問題の解決に積極的に取り組んだ。「ダメ。ゼッタイ。」キャンペーンやマス・メディアの報道、上記回復施設の建設反対運動などに見られるように、いまだにアディクションに対して根強い差別や偏見がある。多様な依存者個人の回復を支援するとともに、社会的な差別や偏見を解消することが当事者の真の回復につながるとの認識を共有した。

5. エビデンスと評価

実施項目⑫：構想確認

“えんたく”構想のチェック

成果：当初研究開発の報告書の作成を行い2020年5月18日に確定した。当該年度の①セミナーや研修の回数・受講者の人数・満足度など、②修了者および認定指導者の数、③「全国ATA協会（仮称）」会員候補、④“えんたく”の開催回数および参加者数、⑤イベントの開催状況と社会的知名度の向上（一般市民、専門職等）、⑥他機関との連携状況、⑦財政的自立の状況などを指標として、龍谷大学が第三者的立場からに総合的に評価することとなっている。今年度は、同大学ATA-net研究センターに活動状況を報告している。次年度は、同大学によって最終評価が実施される予定である。

なお、活動状況については、龍谷大学ATA-net研究センター運営委員会に定期的に報告している。

実施項目⑬：実数確認

“えんたく”実施状況のチェック

成果：“えんたく”参加者に向けたアンケートを実施し、“えんたく”に対する評価のデータを収集し、エビデンスを集積している。次年度に最終評価を実施する予定である。

(3) スケジュール

実施項目		研究開発（定着支援）期間			
		2019年度 2019.12～ 2020.3	2020年度 2020.4～2021.3	2021年度 2021.4～2021.12	事後評価 2021.1～ 2022.3
A	実施項目① 体制準備 (ATA-netとATA研究センターとの連携体制を構築する)	ATA研究センター キック・オフ・シンポジウム			最終報告会
A	実施項目② 事業構想の確立 (“えんたく”スキームを確立する)		マニュアル案作成 EWTの立ち上げ	マニュアル作成 ICT化 ティーチャイン企画 研究会・ファングラの養成 国際学会での“えんたく” DARS	
B	実施項目③ 教材の作成 (“えんたく”担い手養成のための教材を作成する)		初級・教材案作成 模擬裁判	初級・教材作成 ICT化 模擬裁判 講習等の開催	
A	実施項目④ 研修(初級・中級・上級) ①担い手育成のための研修等を確立する ②人材育成のための“えんたく”の実践と担い手の持続的育成	“えんたく”	EWTの立ち上げ 初級・教材案作成 模擬裁判	ICT化 初級・教材作成 模擬裁判	“えんたく”
A	実施項目⑤ 理論化 (アディクション一般理論の発信)		IT研究会の開催	IT研究会の開催 ICT化	法と精神医療に関する学術会議
A	実施項目⑥ 汎用化 (アディクション対策スキームの汎用化・多様化による定着)		ケース・セオリー研究会	ICT化 ケース・セオリー研究会	
A	実施項目⑦ 構造化 ①実装戦略の立案、②EWTの構成等を行い、組織の構造化を図る		EWTの立ち上げ 実装戦略の立案	組織の構造化	

B	実施項目⑧ 財政運営 (会員向け教本の作成と活動資金の獲得と財政基盤の確保)						
A	実施項目⑨ ATA-net のブランド化						
B	実施項目⑩ 組織化 (回復支援者の増加と組織化)						
B	実施項目⑪ 将来展望 (アディクションに対する差別や偏見の解消)						
A	実施項目⑫ 構想確認 (“えんたく”構想のチェック)						
A	実施項目⑬ 実数確認 (“えんたく”実施状況のチェック)						
ガバナンス ボード			 	 	 	 	

(4) 当該年度の成果の総括・次年度に向けた課題

本プロジェクトの中核である、課題共有型“えんたく”の定着については、新型コロナウイルス感染拡大により、ライブでの研修ができなかったため、2020年度に予定していた4回の研修のうち、1回しか実施できなかった。早い段階でこのような状況も予想されたので、その対策として、ライブ研修を録音・録画しICT化に向けたオンライン研修教材の開発に着手した。

2021年度は、ICTを活用し、オンライン研修のメソッドを確立するとともに、可能な限り、ライブ研修を実施して、本来の特徴である対面のタンジブルな人間関係の構築にも努める

予定である。

ATA-netの自立運営については、2021年度末にその準備を完了する予定であったが、2020年度に一般社団法人を設立したことによって、1年早くその環境が整備された。

2021年度は、その具体的展開の年となる。

ウィズ&アフター・コロナの時代においては、新たな形態の社会的孤立からの立ち直り(レジスタンス)が重要な課題となることが明らかとなった。“えんたく”の実践により、孤立の原因とメカニズム、そのリスクの遁減、孤立の予防等の課題を共有する必要がある。

2-3. 会議等の活動

年月日	名称	場所	概要
2020年1月26日	ATA-net PJ内戦略会議	龍谷大学	E・ネーデルマン氏を交えて、今後のアディクション政策について議論を行なった。
2020年2月6日	RISTEXとの会議	JST	定着支援採択に向けたアドバイスをうけた。
2020年2月14日	TJ研究会	第一法規株式会社	講師：大橋君平(弁護士・渥美坂井法律事務所・外国法共同事業) テーマ：米国公設弁護人事務所における包括的な弁護アプローチ「ホリスティック・ディフェンス」の紹介と実務
2020年4月2日	ATA-net期首会議 EWT発足期首会議	龍谷大学	ATA-netの自立について議論した。
2020年4月17日	APS研究会	Zoom	定例の研究会を開催した。 当事者支援のあり方について議論した。
2020年4月29日	EWT定例会議	Zoom	“えんたく”研修開催に向けた議論を行った。
2020年5月15日	APS研究会	Zoom	定例の研究会を開催した。 当事者支援のあり方について議論した。
2020年5月21日	戦略会議	Zoom	RISTEXアドバイザーとPJメンバーらとの戦略会議
2020年5月28日	EWT定例会議	Zoom	“えんたく”研修開催に向けた議論を行った。
2020年5月30日	ATA-net定例会議	Zoom	ATA-netの自走について議論を行った。
2020年6月13日	TJ研究会	Zoom	講師：丸山泰弘 テーマ：米国オークランドのドラッグ・コートとメンタル・ヘルス・コート

2020年6月22日	EWT定例会議	Zoom	“えんたく”研修開催に向けたシラバスの検討を行った。
2020年6月26日	APS研究会	Zoom	定例の研究会を開催した。 当事者支援のあり方について議論した。
2020年7月4日	TJ研究会	Zoom	講師：坂上香氏（映像作家） テーマ：映画「プリズン・サークル」を観て？坂上監督と語ろう？ 定例の研究会を開催した。 当事者支援のあり方について議論した。
2020年7月18日	ATA-net定例会議	Zoom	ATA-netの自走について議論を行った。
2020年7月20日	戦略会議	Zoom	RISTEXアドバイザーとPJメンバーらとの戦略会議
2020年7月24日	APS研究会	Zoom	定例の研究会を開催した。 当事者支援のあり方について議論した。
2020年7月27日	EWT定例会議	龍谷大学 Zoom	“えんたく”研修の教材について議論を行った。
2020年7月31日	APS研究会	Zoom	定例の研究会を開催した。 当事者支援のあり方について議論した。
2020年8月8日	TJ研究会	Zoom	話し手：藤岡淳子、聞き手：嶋亜紀 テーマ：映画「プリズン・サークル」に描かれた回復共同体をめぐって
2020年8月24日	EWT定例会議	龍谷大学 Zoom	“えんたく”研修開催に向けたスキームの再確認をおこなった。
2020年9月12日	TJ研究会	Zoom	講師：赤池一将 テーマ：刑事施設医療と治療的司法
2020年9月20日	EWT定例会議	Zoom	“えんたく”研修に向けた議論を行った。
2020年9月25日	APS研究会	Zoom	定例の研究会を開催した。 当事者支援のあり方について議論した。
2020年10月13日	RISTEX—龍谷大学 会議	Zoom	受託研究費について
2020年10月16日	教材編集会議	龍谷大学	“えんたく”研修のテキスト編集作業を行った。

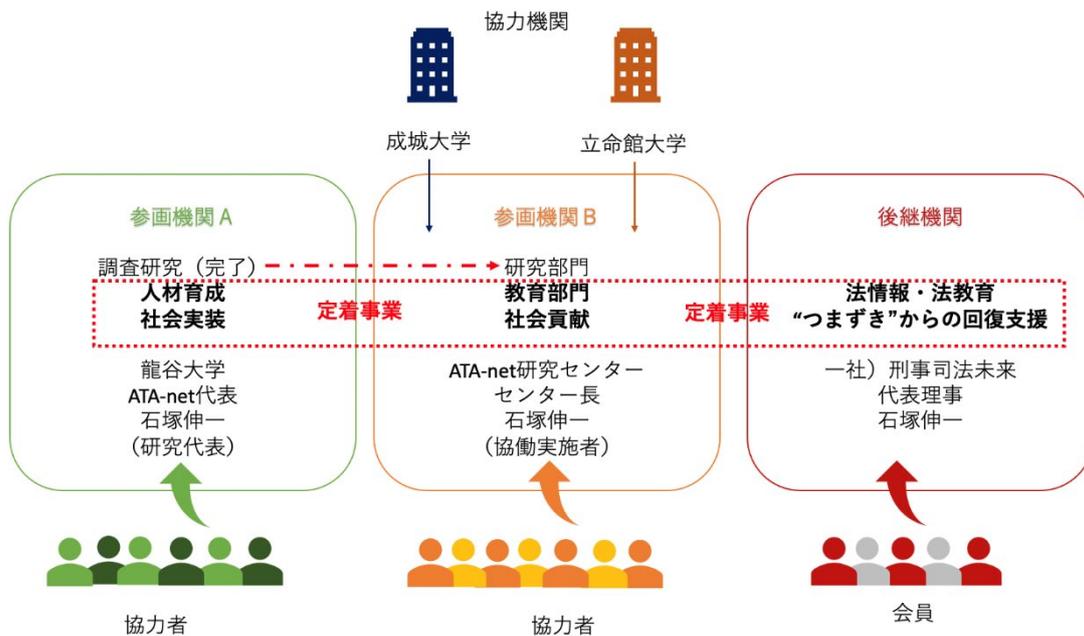
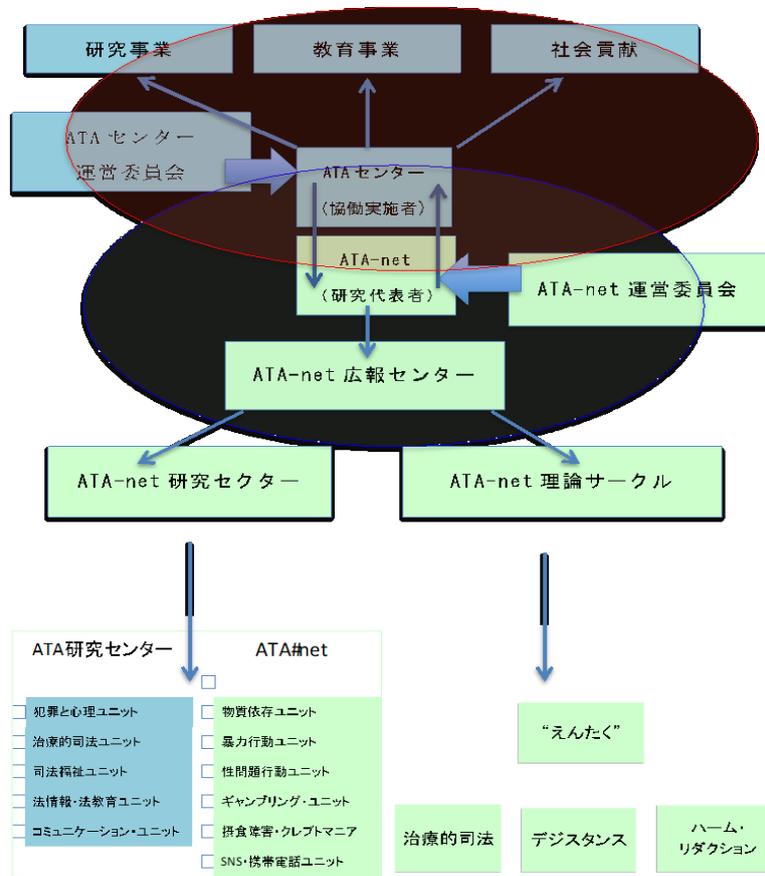
2020年10月 17日	TJ研究会	Zoom	講師：長谷川直美 テーマ：「矯正医療の経験についてー中での関わりと外からの関わりー」
2020年11月 4日	EWT定例会議	Zoom	“えんたく”研修に向けた最終調整を行った。
2020年11月 19日	戦略会議	Zoom	RISTEXアドバイザーとPJメンバーらとの戦略会議
2020年11月 20日	APS研究会	Zoom	定例の研究会を開催した。 当事者支援のあり方について議論した。
2020年12月 12日	TJ研究会	株式会社TKC Zoom	講師：東本愛香、山崎康一郎 テーマ：「性のトラブルと向き合う」
2020年12月 18日	APS研究会	Zoom	定例の研究会を開催した。 当事者支援のあり方について議論した。
2021年1月 16日	ATA-net定例会議	Zoom	ATA-netの今後について議論した。
2021年1月 22日	APA研究会	Zoom	定例の研究会を開催した。 当事者支援のあり方について議論した。
2020年1月 23日	TJ研究会	Zoom	講師：西谷裕子 テーマ：「摂食障害と窃盗症ー当事者と治療者の語りから考えるー」
2021年1月 23日	一社) 刑事司法未来 設立準備会	Zoom	ATA-net自走のための法人設立の準備会を開催した。
2021年1月 30日	一社) 刑事司法未来 設立総会	Zoom	ATA-net自走のための法人設立総会を開催した。
2021年2月6 日	一社) 刑事司法未来 定例会議	Zoom	ATA-net自走のための法人の定例会議を開催した。
2021年2月 13日	一社) 刑事司法未来 定例会議	Zoom	ATA-net自走のための法人の定例会議を開催した。
2021年2月 19日	APS研究会	Zoom	定例の研究会を開催した。 当事者支援のあり方について議論した。
2021年2月 20日	一社) 刑事司法未来 定例会議	Zoom	ATA-net自走のための法人の定例会議を開催した。
2021年2月 27日	一社) 刑事司法未来 定例会議	Zoom	ATA-net自走のための法人の定例会議を開催した。

2021年3月2日	ATA-net・EWT合同 期末会議	Zoom	ATA-net、“えんたく”の自走・定着について
2021年3月6日	一社) 刑事司法未来 定例会議	Zoom	ATA-net自走のための法人の定例会議を開催した。
2021年3月13日	一社) 刑事司法未来 定例会議	Zoom	ATA-net自走のための法人の定例会議を開催した。
2021年3月20日	一社) 刑事司法未来 定例会議	Zoom	ATA-net自走のための法人の定例会議を開催した。
2021年3月22日	APS研究会	龍谷大学 Zoom	定例の研究会を開催した。 当事者支援のあり方について議論した。
2021年3月27日	一社) 刑事司法未来 定例会議	Zoom	ATA-net自走のための法人の定例会議を開催した。

3. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況

東京都墨田区・東京都千代田区・京都府・大阪府寝屋川市と協定を結び、“えんたく”の試行的利用を行っている。京都府においては、“えんたく”の手法を採用し、「再犯防止広報啓発用ハンドブック」を作成し、令和3年度以降当該ハンドブックを活用した研修の実施について計画を進めている。

4. 研究開発実施体制



5. 研究開発実施者

参画機関：龍谷大学

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
石塚 伸一	イシヅカ シンイチ	龍谷大学	法学部	教授
山口 裕貴	ヤマグチ ユキ	龍谷大学	人間・科学・ 宗教総合研究 センター	RA
吉本 麻衣	ヨシモト マイ	龍谷大学	人間・科学・ 宗教総合研究 センター	研究補助員

参画機関：龍谷大学ATA-net研究センター

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
石塚 伸一	イシヅカ シンイチ	龍谷大学	ATA-net研究 センター	センター長
加藤 武士	カトウ タケシ	龍谷大学	ATA-net研究 センター	招聘研究員
上田 光明	ウエダ ミツアキ	龍谷大学	ATA-net研究 センター	PD
暮井 真絵子	クレイ マエコ	龍谷大学	ATA-net研究 センター	RA

6. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など

6-1. シンポジウム等

年月日	名称	場所	参加人数	概要
2020年1月 25日	ATA-net研究センター キック・オフ・シンポジ ウム「動きはじめた薬物 政策」	龍谷大学	230 (ニコニコ 動画配信視 聴者1万人 超)	ATA-net JST/RISTEX定 着支援事業採択記念とし て開催。
2020年8月 6日	高校生「薬物乱用防止教 室」	龍谷大学	30名	大麻所持事案の模擬裁判 を行った。
2020年11 月7日・8 日	“えんたく”リーダー養 成講座	京都テルサ	受講生 13名	11月7日：えんたくの 基礎と体験① 90分2コ マ

				11月 8日：えんたくの基礎と体験②90分3コマ
2020年12月12日・13日	“えんたく”リーダー養成講座	京都テルサ Zoom (ハイブリッド)	受講生 13名	12月12日：進行の基礎と体験 12月13日：ロールプレイ
2021年3月6日	“えんたく”性被害当事者との対話「箱」を飛びだせ	豊中私立生活情報センターくらしかん	30名	定員30名で「支援の場」から飛び出し、自分自身の生き方を模索する体験について話し合う“えんたく”を開催。
2021年3月28日	オンライン“えんたく”	Zoom		定員50名で開催。刑事施設・福祉機関などでトラウマの二次受傷にさらされる支援者がいかにそれを理解・対応するかについて話し合った。

6-2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など

(1) 書籍・冊子等出版物、DVD等

(2) ウェブメディアの開設・運営

・ATA-netホームページ (ATA-net、<https://ata-net.jp>、2020年4月)

(3) 学会 (6-4.参照) 以外のシンポジウム等への招聘講演実施等

・大岡プロジェクトオンラインシンポジウム、『トラウマが与える影響とは—トラウマインフォームドな社会にむけての発信—』、2021年1月30日、Zoom、石塚伸一 (龍谷大学)

6-3. 論文発表

(1) 査読付き (0件)

●国内誌 (0件)

●国際誌 (0件)

(2) 査読なし (1件)

・石塚伸一 「共同研究の趣旨 (特集 刑事手続における薬物依存への早期介入：再犯防止か?社会的支援か?) Introduction」, 『刑法雑誌』 59(3), 419-423頁, 2020年9月

6-4. 口頭発表 (国際学会発表及び主要な国内学会発表)

(1) 招待講演 (国内会議 2件、国際会議 1件)

- ・石塚伸一（龍谷大学）、*Whither Criminology? Crime, Justice and Social Order in a Time of Pandemic*、ヨーロッパ犯罪学会（2020）、オンライン、2020年9月11日
- ・石塚伸一（龍谷大学）、対立から対話へー当事者と行政との協働による地方再犯防止推進計画づくりー、日本犯罪社会学会第47会大会、Zoom、2020年10月3日
- ・石塚伸一（龍谷大学）、司法面からみたハームリダクションー現行の法制度内で何が可能かー、第34回日本エイズ学会、オンデマンド、2020年11月27日-12月25日

(2) 口頭発表（国内会議0件、国際会議0件）

(3) ポスター発表（国内会議0件、国際会議0件）

6-5. 新聞／TV報道・投稿、受賞等

(1) 新聞報道・投稿（0件）

(2) 受賞（0件）

(3) その他（0件）

6-6. 知財出願

(1) 国内出願（0件）

(2) 海外出願（0件）